

現役時代の思い出

7期 中山雅之

現役時代を振り返ると、福島県での夏合宿が一番の思い出として残っています。

今から55年ほど前の私が入学した昭和43年は、安保闘争から続いた学園紛争の最終年で、中央大学もご多分に漏れず、ヘルメットを被った学生が駿河台の本校を占拠し、学校側はそれに対抗して駿河台本校校舎と理工学部校舎をロックアウトして、一般学生は授業も部活もありませんでした。ここ3年程の新型コロナによって対面授業がリモート授業に代わったり、インターネットやIT機器で情報交換したりするなどは未だ夢の世界で、PCもネットワークもない時代では学生はアルバイトをするか故郷に帰って家業を手伝うかの毎日でした。私は1年生の12月から翌年8月までそのロックアウトが続き、授業は勿論、進級すら出来ませんでした。

幸いなことに、理工ボート部員には戸田が有りましたので、学園紛争を横に見ながら戸田でボートを漕いでいましたが、昭和44年春は進級も、春休みもないまま戸田で合宿し、夏には福島県荻野漕艇場での合宿となりました。この福島県での合宿が私の貴重な思い出となりました。

福島県での夏合宿は翌年も続き、合宿所（庄屋さんの大広間）での生活、食事当番、近所の人との交流など、色々な思い出が沢山出来ました。荻野漕艇場は阿賀野川の中流にあり、下流に行けばすぐ新潟県、上流に何十キロも上がれば奥只見の秘境に行き着く自然豊かな環境にありました。漕艇場の500m下流は堰が有り川幅が100mは有ったと思います。現在とは違う重たいナックル・フォアで川面を何キロか漕ぎ上がると鬱蒼とした川辺の森から鶯の盛んに鳴く声が聞こえ、水の中には名前も知らない魚の姿が見られました。流れが結構あるので少し休むと下流に流され、慌てて漕ぎ上がることも練習のいい糧となりました。



《12年前に行った荻野漕艇場
大型台風後でデッキが壊れています》



《阿賀野川上流
周りは手つかずの森林です》

最初の福島夏合宿は当初2週間の予定のはずが1週間経った時、東京からの電話で「ロックアウトが解除され全学生にレポート提出による進級」との連絡が有り、急遽合宿中止となりました。私は9月にやっと2年生になれたのです。

翌年の合宿は漕ぎながらギックリ腰になり、2日間も合宿所で寝ていたり、前の家の女高生と親しくなり、帰京後渋谷でデート（但しお姉さんが一緒でしたが）したり、合宿の帰りには仲間と別れ一人磐越西線で新潟に行き、瀬波温泉で旅館の目の前にある日本海に沈む夕日を見ながら海の幸を食べたりと思い出は尽きません。

私にとっての福島合宿はとても貴重な思い出で、社会人になってから3度ほど遊びに行きました。写真は3度目訪問時のものです。

現役の皆さんには、社会人になってからは絶対出来ない、日常と違う二度と作れない思い出を是非作ってもらいたいと思います。